

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 30 年 8 月 31 日  
< 第 4 号 >  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318

## ●第 8 回講座「授業づくりの基礎⑥」「個別指導計画の作成、ICT を活用した授業づくり」

平成 30 年 7 月 21 日（土）に、授業づくりの考え方や指導方法について学ぶことをねらいとして、第 8 回講座を行いました。今回は、教職に就くことを志す大学生に講座を公開し、関係大学の学生を中心に約 60 人の参加がありました。

### 【小学校コース】

理科の講座では、東京教師養成塾担当の安齋 正彦教授、小林 政雄教授、水野 久美恵教授、牛島 隆文教授が理科で学ばせたいことや単元を通じた理科の授業づくりについて講義を行いました。前半は、小学校第 4 学年の「ものの温度と体積」を題材に 1 単位時間分の指導案を作成する講義・演習を行いました。また、模擬導入実験を通して、児童の意欲を高めるための事象提示の方法について解説しました。後半は「基礎から学ぶ理科観察・実験テキスト」（東京都教職員研修センター 平成 25 年）を用いて、実験器具の確認や加熱実験を通して、観察・実験の基礎・基本を学ぶ講義・演習を行いました。



－ 模擬導入実験の様子－

### 【特別支援学校コース】

前半は、東京教師養成塾担当の坊野 美代子教授が「単元指導計画の作成について」をテーマに講義・演習を行いました。東京都の個別指導計画の概要や、作成の効果についての講義の後、子供一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導を行うことができるよう、実際に個別指導計画を作成する演習を行いました。後半は東京教師養成塾担当の信方 壽幸教授が「ICT を活用した授業づくり」をテーマに講義・演習を行いました。塾生一人一人がパソコンを操作し、プレゼンテーションソフトを用いて教材づくりに取り組む中、子供たちの興味・関心を喚起させるような教材づくりについて解説しました。



－ ICT 活用についての講義－

### 【塾生の感想より】

- ・理科の授業の基本となる問題解決型の学習の手順を踏まえた授業づくりについて体験的に学ぶことで、児童の思考の変容を意識して考えることができた。
- ・個別指導計画は作成して終わりというわけではなく、活用を通して効果を検討し、今後の指導の改善等に生かしていく必要があることが分かった。また、ICT を活用した授業づくりを行うことで、子供の興味・関心を引き出すことができるとともに、学びの可能性が広がると感じた。

## ●第 9 回講座「指導と評価」「コミュニケーション能力の向上」

平成 30 年 8 月 4 日（土）に、学習における評価の意義を理解し、適切な評価を行い、指導に生かすこと及び児童・生徒や保護者、地域住民等との信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキルを身に付けることをねらいとして、第 9 回講座を行いました。今回も、教職に就くことを志す大学生に講座を公開し、関係大学の学生を中心に約 50 人の参加がありました。

前半は小学校コース、特別支援学校コースともに「指導と評価」についての講義・演習を行いました。小学校コースでは、東京教師養成塾担当の村上 正昭指導主事が、指導と評価の一体化、妥当性、信頼性のある評価をキーワードに、子供の側に立って授業内容を理解することの大切さについて解説しました。特別支援学校コースでは、教育庁指導部特別支援教育指導課 井原 優 統括指導主事を講師に招き、学習指導要領改訂のポイントと学習評価の充実についての講義を行いました。後半は、株式会社マネジメントサポートから講師を招き、他者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキルの向上や、マナーについての正しい認識を深めるための講義・演習を行いました。身だしなみや挨拶、言葉遣いといった基本的なことから、報告・連絡・相談の重要性といった実践的なことまで、演習を交えながら解説しました。



－「コミュニケーション能力の向上」の講義－

### 【塾生の感想より】

- ・指導と評価は表裏一体であることを改めて実感した。児童の学習状況の把握と指導の改善という視点をもって評価の意義を考えながら行っていくべきであると学んだ。また、評価は児童も保護者も納得できるものにしなければならないので、「妥当性」と「信頼性」をより意識した授業づくりを行う必要性を実感した。
- ・チーム学校で取り組むことが大切とされている今、コミュニケーションスキルは学校に携わる全ての人と連携するために重要な能力だと改めて実感した。

## ◆ 単元指導計画の作成と本時の授業づくり ◆

東京教師養成塾教授 木村 良平

特別教育実習は伸長期を迎え、塾生の授業研究も第4回から第7回と進み、実習経験を重ねながら授業力を高めていく段階となります。そのためにも、これまでの形成期の学びを生かし、授業づくりに工夫を重ね、更に授業力を身に付けていくための基礎・基本を確実に習得していくことが大切です。授業は、計画的な学習指導の下に実施されます。その学習は、各教科等の目標を受け、指導内容を踏まえた単元指導計画に基づきます。

単元指導計画の作成に当たっては、学校における教育課程編成の基本方針を踏まえ、各教科等の目標や特質を理解し、児童の実態等を考慮し、指導の効果を高められるような工夫をすることが求められます。

具体的に社会科を例にとると、まず単元の全体像を見通した計画を作成することです。学習指導要領解説を基に、単元の目標や評価規準、目標を達成するための学習内容の組み立て、学習内容を具体的に理解させたり習熟させたりするための学習活動の工夫、学習活動を支える教材の精選を図ります。

次に、問題解決的な学習の流れを基本とし、児童の問題意識や興味・関心、思考の流れを考慮し、指導計画を作成していきます。単元のはじめは、問題把握や学習問題づくりを意識して、児童の主体的な学びが展開できるように留意します。

このように、各教科・領域の特性に応じて単元指導計画を作成していくことが、充実した授業につながります。

東京教師養成塾では冊子「授業づくりを考える」を用意し、各教科、特別活動、外国語活動等の単元指導計画・本時の指導の例を提示しています。養成塾生は、これを十分に理解し参考にしながら単元指導計画の作成を行います。単元指導計画の作成は、授業の基盤となる教材研究を深める大切な意味があります。単元の目標、単元観・児童観・教材観を踏まえた教師の指導観、評価規準が明確になります。本時学習の単元における位置付けや学習の系統性、関連性が理解しやすくなります。

いま求められている資質・能力の育成を図る、主体的な学び、対話的な学び、そして深い学びをめざし、教師としての授業力を少しでも高められるように努力を重ねてほしいと思います

## ◆ 学校が担う役割とは（地域・保護者からの信頼に応える） ◆

東京教師養成塾教授 上野 研二

伸長期を迎えて、養成塾生に見られる成長に学級経営への視野の広がりや児童・生徒理解力の向上があります。形成期の講座や指定校での研修・授業実践を通して、教師として子供たちを育てる役割の認識・自覚を高めてきたことや、新学習指導要領の実施に向けてこれからの学校教育が目指す内容の理解を深めてきたことの成果と受け止めています。

塾生のこれらの成長は、学校運営への参画や児童・生徒のニーズに応えることにつながる芽となるものです。

これからの時代に求められる教育を実現していくために、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという気概をもち、学校の一員として家庭や社会と連携及び協働の意義と具体を学ぶ好機としていく必要があります。

義務教育に関する意識調査（平成17年 文部科学省）の結果において、小・中学校保護者が学校教育で身に付ける必要性の高い能力・態度として求めていることの上位は、①教科の基礎的な学力、②人間関係を築く力、③自ら学ぼうとする意欲（力）です。学校は単に教科学力を身に付ける場所ではなく、集団生活の中での人間関係、公共心、規範などを学ぶ場としての役割も求められています。一方、教科学力とは、家庭生活を含めて「ものごとをやりとげる粘り強さ」をもっていなければ獲得できないものです。家庭や地域社会の協力を得て獲得した学びの喜びは、自ら学ぼうとする力や協働的な社会参画力を身に付けるエネルギーとなります。

養成塾では、塾生が児童・生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことを、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割であることを感得するとともに、塾生として使命感をもって学級経営への参画体験と児童・生徒の確かな学びとなる1単位時間の授業に取り組むよう指導してまいります。